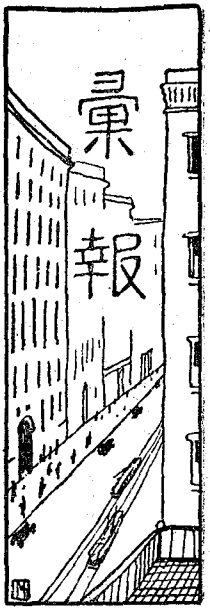


◎第十回定時會員總會開會

五月二十一日午後三時より麴町區丸之內日本倶樂部に於て、本會評議員會と第十回定時會員總會を開會した、集る者水野會長內田副會長を始め評議員會員十八名、法定數に達するを以て水野會長は開會を宣し、宮崎庶務部理事缺席に付田中幹事より昭和三年度に於ける事務の報告をした。

昭和三年度事務報告

道路職員講習會ニ關スル件

道路職員ノ智識技能ヲ向上セシムル目的ヲ以テ客年八月十日ヨリ十日間ニ亘リ第四回道路職員講習會ヲ東京市ニ於テ開催シタリ聽講者ハ何レモ道路技術竝事務ノ實際ニ携ハレル內地、朝鮮臺灣、樺太等ノ職員ニシテ其ノ數百六十三名ノ多キニ達シ是等ニ對シ道路構造ノ一般、道路ノ鋪裝工法、コンクリート橋及鋼橋、專用自動車道路ノ設備、應用地震學等苟モ道路技術ニ直接必要ナル學術ヲ始メトシ道路行政ノ一般竝ニ道路費ノ財源等ニ關スル各科ノ教授ヲ爲セル外有益ナル科外講演ヲ爲シ且東京府市ニ於テ執行スル道路工事ノ見學ヲ行ヒタリ是等聽講者カ各任地ニ歸リテ之ヲ實際ニ應用スルニ至ラハ道路改良ニ資スル所蓋シ尠少ナラサルヘシ

道路改良講演會ニ關スル件

道路改良ニ關スル一般民衆ノ自覺ヲ喚起スル爲メ客年十月二十四日ヨリ十一月三日ニ亘リ郡山、福島、米澤、山形、鶴岡、酒田、大館、秋田、富山、高岡ノ各地ニ於テ道路改良講演會ヲ開催シ松木、中川、牧ノ各理事竝ニ幹事夫々講演ヲ擔當シタリ方今自動車ノ機能ヲ產業ノ發達ニ利用セムトスル機運漸ク盛ナラムトスルノ秋本會ノ計畫ハ地方人心ニ投合シ各地何レモ盛況ヲ呈シ相當效果ヲ收メタルモノヽ如シ

道路交通情勢調査ニ關スル件

道路ノ改良ヲ策スルニ方リテハ道路交通ノ實況ニ鑑ミ將來ヲ察シテ計畫スヘキハ固ヨリ當然ナリト雖モ我國ニ於テハ從來交通情勢ノ調査ヲ爲シタルコト極メテ稀ナルヲ以テ之カ調査ヲ奬勵スルト共ニ其ノ方法ヲ指示シテ調査ノ簡易化ヲ圖リ且調査ノ慣習ヲ馴致スルノ必要ヲ認メ客年十月二十五、六、七ノ三日間ニ

亘リ全國ニ於ケル國道府縣道約八千里ニ就キ各路線約二里毎ニ調査所ヲ設ケ府縣ニ依囑シテ全國一齊ニ調査ヲ開始シタリ其ノ調査ノ結果ハ目下集計中ニシテ近ク之カ完成ヲ觀ルニ至ルヘク本邦道路ノ改良計畫ニ多大ノ效果ヲ與フヘキヲ疑ハス殊ニ本件ノ如キ全國ニ亘ル道路交通情勢調査ハ我國ニ於テ嚆矢トスル所ナルニモ拘ハラス良好ノ結果ヲ見ルニ至リタルハ一ニ各地方廳カ本計畫ニ對シ多大ノ援助ヲ與ヘラレタルニ依ルモノニシテ本會ノ感謝スル所ナリ

技術員海外派遣ニ關スル件

歐米諸國ニ於ケル道路施設ヲ視察シ其ノ得失ヲ比較研究シテ我國道路ノ改良ニ資スルハ極メテ必要ナルコトニ屬スルヲ以テ道路技術官ヲ海外ニ派遣スルコトハ本會ノ夙ニ奬勵シ助勢スル所ナリシカ本年度ニ於テハ兵庫縣土木部長田邊良忠東京府在勤地方技師藤田周造二氏ヲ選定シ北米ニ於ケル道路狀況ノ視察ヲ囑託セリ兩氏ハ現ニ彼ノ地ニ赴キ視察中ナルヲ以テ歸朝ヲ俟チ其ノ報告ヲ本會機關誌上ニ發表セムトス

調査書頒布ニ關スル件

簡易鋪裝道ノ普及ヲ期スルカ爲メ本會第五調査部ニ於テ調査發表シタル道路構造調査書第一編「簡易鋪裝道」ハ社會ノ簡易鋪裝道急設ノ要求ニ適應シ其ノ頒布ヲ了セルモノ年度内既ニ千六百餘部ノ多キニ及ヒ各地方カ此ノ設計ニ則リ鋪裝ヲ施工スルモノ漸次增加シ現時地方財政ノ下ニ著々鋪裝道ノ普及ヲ見ルニ至レルハ本會ノ欣快トスル所ナリ

雜誌發行狀況ニ關スル件

機關雜誌道路の改良ハ卷ヲ改ムルコト茲ニ十一回其ノ發行部數毎月六千有餘ニ及ヒ各地有志ノ賛助ニ依リ漸次增加ノ狀勢ニ在リテ其廉價ハ斯界ニ於テ定評ノ存スル所ナリ今後益〻材料ノ精選ニ勉メ更ニ其購讀範圍ヲ擴張シテ本誌發行ノ目的ヲ貫徹セムコトニ努メントス

會員ノ狀況ニ關スル件

本會々員年度末現在數四百十六名ニシテ前年ニ比シ七十八名ヲ增加シタリ之レ石川、富山、福岡、靜岡殊ニ岡山地方ヨリ多數ノ入會アリタルニ依ルモノニシテ漸次本會趣旨ノ普及セルヲ徵スヘシ賛助員ハ五千四百四十四名ニ達シ前年ニ比シ二十五名ヲ增加シ其ノ實勢ニ著シキ消長ヲ示サスト雖モ今後地方幹事ノ盡力ニ依リ益〻其ノ增加ヲ圖ラムトス

滿場一致報告を承認した、次で昭和三年度會計報告及昭和四年度一般會計歳入出豫算及特別會計歳入出豫算を附議し、山田經理部理事缺席に付田中幹事より説明した。

新年度に於ける新事業は前號に報導したやうに、技術員の海外派遣員從來二名の者を三名に增加し、這般施行した

國道府縣道交通情勢の調査を完成して各府縣に配付し、來る十月東京に於て國際道路協議會を開催すること、町村道路の計畫樹立に就て本會が調査の依頼に應ずること、優良な修路工夫百人を表彰して修路工夫の功勞に酬ひ、道路法施行十週年を記念する爲め懸賞論文を募集すること等であつて、是等は何れも滿場一致で可決され、四時半散會した。

◎通常會員增加

群馬縣下左記諸氏より入會の申込があつた、募集の任に當られた群馬縣當局の盡力を謝する。

高崎市新田町德田鹿藏殿、碓氷郡安中町湯淺三郎殿
群馬郡箕輪町竹腰德藏殿、佐波郡玉村町浦野孝助殿
吾妻郡中之條町群馬自動車株式會社代表者遠藤定吉殿吾妻郡澤田村四萬田村茂三郎殿

◎東京府八號國道の竣功式

東京府知事執行に係る八號國道八王子市追分町及淺川町淺川停車場前間の改築工事が竣功したので去月十九日新道沿ひの横山村散田に於て盛大な竣功式が擧行された。

當日早朝はまだ夜來の大雨降り續いて折角の擧式も雨無情かと轉た怨らめしく想つたが、八時過ぎには雨足も緩やかとなり、細雨に變つたので、稍愁眉を開いた。開會の時刻近づくに從つては此の雨も見事やんで、白雲點在し、新緑は一段の趣を副へる樣になり、地元八王子市淺川町横山村の各軒頭には喜色を表はす國旗もゆるやかに、行き交ふ人々も華やかになつて來た。

午前十一時、開會の振鈴と共に、式は型の如く初められ、平塚東京府知事式辭、來島東京府土木部長の工事工程報告、内務大臣祝辭（清水書記官代讀）に引き續き府會議長、衆議院議員總代、地元町村長總代、本會會長、（都築幹事代讀）竣功式協賛會々長等の祝辭ありて、正午嚴肅裡に閉式した。

續いて來賓一同は、八王子、淺川、横山の三市町村共同の工事竣功式協賛會の主催に係る祝賀會の懇な招待を受け

主客歡を盡くして午後二時散會した。

本道路の計劃は本號紹介欄の通であるが、本道路は國道としても重要性を帶ぶるのみならず、一面八王子市の都市計劃街路の基礎を爲し、また多摩御陵道に接續することに於て一層緊要性を持つもので衷心より此の竣功を慶賀する次第である。知事式辭、內務大臣及本會々長祝辭は左の如くである。（衞）

式辭

輓近文化ノ進展ト產業ノ隆昌ニ伴ヒ都鄙ヲ通シテ交通ノ頻繁ヲ加フルモノアルハ顯著ナル事象ニ屬スルノミナラス路面ヲ馳走スル高速度機關ノ發達ニ從ヒ道路ニ關スル施設亦敢ヘテ舊態ニ安ンスヘカラサルヤ論ヲ俟タス由來八王子市及之ニ隣接セル横山、淺川兩村ハ機業盛ンニ蠶桑ノ業亦豐ナルノミナラス多摩御陵ノ御治定ニ伴ヒ近時往來日ニ月ニ滋シ

本府ニ於テハ夙ニ叙上ノ情勢ニ鑑ミ國庫ノ補助ヲ得テ之カ交通ノ幹線タル八號國道改修ノ議ヲ決シ曩ニ工ヲ起シ拮据經營財ヲ投スル七拾有餘萬圓時ヲ閱スル十有餘月而シテ今ヤ完ク成ル改善ノ跡著シキモノアルハ內務當局ノ懇篤ナル指導ト關係各位ノ執烈ナル援助ニ非スシテ何ソヤ

而モ本日ヲトシテ竣工ノ式典ヲ擧行スルニ當リ協賛會ヲ設ケテ祝意ヲ表セラル　洵ニ感激ニ堪ヘサル所ナリ希クハ本道ノ利用ヲ擴充シ仍テ以テ殖產興業ノ實ヲ擧ケラレムコトヲ一言叙シテ式辭トナス

昭和四年五月十九日

東京府知事　平塚廣義

祝辭

八號國道八王子市追分町及淺川町淺川停車場前間改築成ルヲ告ケ本日茲ニ竣功式ヲ擧ケラル

由來八號國道ハ、甲州街道ト稱セラレ、帝都物資ノ供給上夙ニ重要ノ地位ヲ占ムルノミナラス、近時多摩御陵ノ參拜者、日ニ倍々多ク、本區間ノ交通愈〻繁激ヲ加ヘタルニ拘ラス、其ノ構造規格現時ノ交通狀勢ニ適セサルノ憾ミアリ。東京府當局思ヲ茲ニ致シ、曩ニ官民協力シテ改築ノ計畫ヲ樹ツルヤ、政府亦之ヲ助成スル所アリ。昭和三年五月起工以來工程一年費ヲ費ス七十一萬圓今輒チ之カ完成ヲ見ルニ至ル

念フニ道路ノ面目爲ニ一新シ、之ヲ併用スル八王子軌道ノ竣成スルニ於テハ、之ト相俟ツテ今後ノ交通著シク圓滑トナリ、其經濟上ニ及ホス利益一層大ナルモノアルヘシ。冀クハ將來意ヲ之カ維持管理ニ致シ以テ長ヘニ其利ヲ收メラレムコトヲ一言述ヘテ祝辭トス

昭和四年五月十九日

内務大臣　望月圭介

祝辭

國道八號線中擴築工成リ茲ニ本日チトシテ竣功ノ式典チ擧ケラル、洵ニ慶賀ニ堪ヘサルナリ

抑モ本道路ハ、往時ノ所謂甲州街道ニシテ、帝都ヨリ八王子チ經、西甲州ニ連接スル重要路線ナルモ其ノ構造規格甚タ舊ク現時ノ交通ニ適應セス、東京府當局之カ改良ノ計畫チ樹立シ、國庫ノ補助及ヒ地方人士ノ協力ニヨリ工チ積ムコト一年今輙チ成ル

惟フニ之ニ依リテ、舊來ノ面目改マリ地方產業ノ發展チ促シ經濟上利得スル所蓋シ尠少ナラサルヘシ

冀クハ官民一致克ク之カ維持ニ力メ、又更ニ進テ接續區間ノ完備ニ留意シ、長ヘニ福祉ノ增進ニ資セラレムコトチ一言所懷チ述ヘ以テ祝辭トス

昭和四年五月十九日

道路改良會會長　水野練太郎

◎鳥取縣日野橋竣功式

境港と相對して山陰に於ける阪神と稱せらるゝ米子市の市外、日野川十八號國道の横過する所に架設された日野橋は、昭和二年六月工を起してより工程頗る順調に進捗し、五月十九日盛大なる竣功式を擧行した。舊橋は明治二十六年の架設に係る木橋であつて橋體腐朽甚だしく加之屢々大出水に際會し破損其極に達し裏日本に於ける交通は爲に危懼を感ずるものがあつた。當局深く思をこゝに致し地方人士の熱望久こゝに集り竟に一大鐵橋の架設を計畫し政府又之を助成し今日其の竣功を見るに至つたのである。橋長三百六十五米八、有効幅員六米四、工費金四十四萬圓內國庫補助金二十八萬四千餘圓其の結構の壯大なること山陰第一である。本橋開通に際し內務大臣の祝辭は左の如くであつた。

祝辭

日野橋改築功チ竣ヘ茲ニ本日チ以テ落成式チ擧ケラル邦家ノ爲寔ニ慶祝ニ勝ヘサルナリ本橋ハ十八號國號日野川ニ架設セラレ交通上極メテ重要ノ地點チ占ムルニ拘ラス從來ノ架橋ハ其ノ規格狹少ニ失シ加フルニ腐朽亦既ニ久シク到底現時ノ交通狀勢ニ適應セサルモノアリ縣當局深ク之チ憾トシ地方人士ノ熱誠ナル

協力ニ依リ曩ニ架換ヲ計畫スルヤ政府亦之ヲ助成スル所アリ工程着々其ノ歩ヲ進メ今乃チ堅牢宏壯ナル新橋ノ成ルヲ見ル、念フニ山陰ノ交通ハ之ニ依テ一層ノ利便ヲ加フルニ至ルヘク地方開發產業ノ進展ニ寄與スル亦極メテ大ナルモノアルヲ疑ハス、冀クハ維持管理能ク宜シキヲ制シ以テ長ヘニ其ノ效果ヲ收メラレムコトヲ一言以テ祝辭トス

昭和四年五月十九日

内務大臣　望月圭介

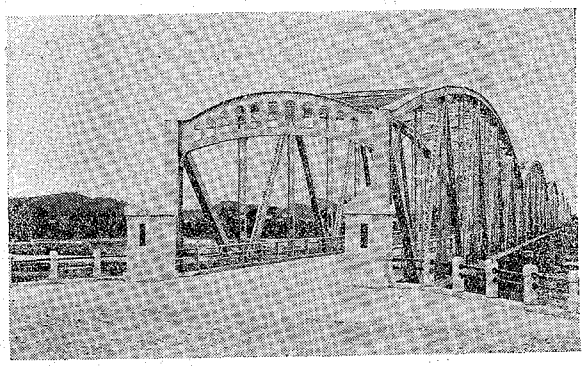
當日は五月晴に慶まれた麗かな日和であつて橋上より仰けば中國の名山大山は高く清空に紫紺の婉杯を彩り、俯せば脚下に日野の清流或は深淵となり或は瀨となつて砂礫を澡ひ、顧れば美保灣の紺碧湛々として弓狀の長き白濱に劃さるゝところは名所弓ヶ濱である、由來本地方は古代文化の中心地であつて舊蹟甚だ多い、惟ふに本橋は山陰の交通に一エポックを劃し產業の發達文化の進運を助長するのみならず又名橋として永遠に當地方の誇となるであらう。數萬の縣民は朝來橋畔に群集し未曾有の盛觀を呈した、渡橋式も目出度終了するや、手に〳〵小さい國旗を捧げた小學兒童團は萬歲を絕叫し勇ましく唱歌を唱ひながら嬉々として一般縣民に先立つて渡橋した、其の樣宛然鳥取縣民一同の歡喜を代表し併て新日本の建設を表彰するものゝ如く參列諸員に偉大なる感激を與へたのであつた。（瀧川生）

◎戸田橋起工式

東京埼玉兩府縣當局多年の懸案であつた九號國道戸田橋の架換工事は、本年二月八日改築認可を得ると共に着々起工準備の歩を進めてゐたが、愈々工事の段取り成り、五月二十二日午前十一時を期して、起工の式を擧行することになつた。

此の日天氣清朗晩春の薰風心持よく頰を撫でる。煙火の爆音は參集者の心をいやが上にも浮きたゝせた。式場は戸田橋に近接箇所の堤防上に設けられ、定刻となるや內務大臣代理淸水書記官を始め、東京埼玉兩府縣知事其他多數の官民來會し一同の着席を俟つて嚴そかな古典的儀式が始り正午過ぎ無事終了した。

本國道は、東京市日本橋區本石町三丁目に於て四號國道と分岐して、東京府北豐島郡板橋町、埼玉縣北足立郡浦和町及び高崎市を經て群馬縣廳所在地の前橋市に達してゐる道路で俗に中仙道と稱せらる。戸田橋は此の道路中東京府と埼玉縣との境を流れてゐる荒川に跨る橋梁で、帝都西北部の咽喉を扼し本路線中に於ても交通の重要地點を占めてゐるのである。本橋の由來を尋ぬるに、慶長七年德川家康將軍に任ぜられ幕府を江戸に開き天下の中心江戸に移つてより中仙道は兩毛信越地方に通ずる重要な往還道路となり三代將軍家光以後は參勤交代の通路として交通盛んであつた。元和二年八月定船場の制を定めた際戸田の渡は、此の定船場として指定されたのであつた。明治五年六月埼玉縣は從來の渡船場の實地檢査を行つて賃錢を改定し、四民公私の差別なく賃錢を徴收することとした。其後長野縣人正木哲架橋を企て、戸田村住人永井吉右衛門と協力して合信社を組織し資金の募集を爲し明治八年八月賃取橋の架設を見るに至つた。該橋は相當の利益を上げ再度期間延長の許可を得て明治二十九年迄之を繼續したが、明治二十九年に至り許可條件に基いて埼玉縣に移管せられ、爾來埼玉縣に於て永年管理して來つた。大正元年に至り腐朽甚敷を以て東京府と協調し兩府縣負擔を以て現在の長さ七十一間、幅員三間の土橋に架替へられた。然るに其の後十七ケ年を經過し一朝洪水に際會せば、橋脚浮動し危險極なき爲め交通忽ち杜絶するの現狀にあるを以て、玆に總工費百貳拾六萬九千餘圓の巨費を投じ、工事設計概要に示すが如き永久的



竣功したる日野橋

施設の大橋架設をば企圖せられたのである。

念ふに昔時に於ける大橋架設は、非常なる難工事とされ幾多の危險と尊き人命の犧牲を拂つて施行されたものであり、又彼の聞くだに恐しき人柱の傳說は今尙人口に膾炙されてゐることなどに想到すれば、當時の起工式なるものは現代人の想像以上の幽嚴凄慘なものであつたらう。が吾人は晴れやかな喜びの中にこの式を終了し得る幸福を持つてゐる。これを惟ひかれを考へたならば、祖先が味ふた悲壯なる意氣を酌み、滿身の努力を以て、工事を完成せずばなるまいと思ふ。最後に戸田橋の前途を祝福し、其の完成を祈る。

因に內務大臣、本會々長、兩府縣知事、地元村長、來賓諸士の祝詞は左の如くである。尙本工事概要を末尾に轉錄する。（東生）

祝　詞

戸田橋架換準備成リ玆ニ本日ヲ以テ起工式ヲ擧ケラル、本橋ハ國道九號線荒川筋ニ架設セラレ其ノ左岸ハ埼玉縣ニ右岸ハ東京府ニ屬シ帝都西北部ノ咽喉ヲ扼シテ交通上夙ニ重要ノ地位ヲ占ムルニ拘ラス舊式ノ木橋ニシテ幅員狹ク橋齡亦既ニ久シキヲ經近代ノ交通機關トシテ其ノ機能ヲ發揮シ能ハサル實狀ニ在リ、今乃チ政府ノ助成ヲ得府縣協力ノ下ニ玆ニ架換ノ計畫ヲ樹立ス邦家ノ爲洵ニ慶賀ニ堪ヘサルナリ

惟フニ本橋ノ架設ニハ精緻ノ技巧ト周到ナル用意トヲ必要トスルモノアルヘク施行年度亦四ケ年ニ及フ、希クハ終始一貫最善ノ努力ヲ竭クシ以テ之カ完成ニ勉メラレンコトヲ、一言ヲ述ヘテ祝辭トス

昭和四年五月二十二日　　內務大臣　望月圭介

祝　辭

國道九號線戸田橋架換準備成リ玆ニ本日ヲ以テ起工ノ式典ヲ擧ケラル邦家ノ爲洵ニ慶賀ニ堪ヘサルナリ

抑本橋ハ帝都ノ西北ヨリ埼玉縣ニ入ル重要ナル地位ヲ占ムルニ拘ラス其ノ構造規模時運ノ要求ニ伴ハサルヲ遺憾トスルコト久シ惟フニ本工事完成ノ曉之ニ依リテ交通上至大ノ効果ヲ齎スノミナラス產業ノ發展地方ノ開發ニ資スル所蓋シ尠少ナラサルモノアラン冀クハ最善ノ努力ヲ以テ所期ノ完成ニ勉メラレムコトヲ一言ヲ述ヘテ祝辭トス

昭和四年五月二十二日

道路改良會會長　水野錬太郎

式辭

本日チトシ朝野諸彦ノ賁臨ヲ得テ九號國道東京府北豐島郡志村埼玉縣北足立郡戸田村間戸田橋改築工事起工ノ式典ヲ擧クルハ洵ニ欣幸トスル所ナリ

抑本路線ハ所謂中仙道ト稱シ帝都ト其ノ郊外トヲ連絡シ更ニ進ンテ群馬及信越地方ニ通スル要路ニ當リ古來交通頻繁ナリ殊ニ近時帝都ノ殷賑ト其ノ近郊ノ發展トニ伴ヒ生活必需品ノ移出ニ又各種原料品ノ移入ニ車馬ノ來往日ヲ追フテ繁劇ノ度ヲ加フルニ至レリ然ルニ現在ノ橋梁ハ大正元年ノ架設ニ係ル延長七十一間幅員三間ノ簡易ナル木構桁土橋ナルヲ以テ一朝洪水ニ際會セムカ橋脚浮動シ危險極リナク爲ニ交通忽チ杜絶スルノミナラス常時ニ在リテモ毎年多額ノ修理費ヲ投シ辛フシテ其ノ用ニ堪フルノ狀態ニシテ其ノ不便不利眞ニ忍フ可カラサルモノアリ玆ニ於テ曩ニ兩府縣ハ圓滿ナル協調ヲ遂ケ總經費百二十六萬九千圓大正十五年度以降五ケ年ノ繼續事業トシテ改築ノ事トニ決シ之ニ對シ三分ノ二ノ國庫補助ヲ仰キ殘額四十二萬三千餘圓ハ之ヲ兩府縣折半負擔トシ工事ノ執行ハ埼玉縣之ニ膺ルコトヽナレリ今ヤ設計其他諸般ノ準備全ク成リ本日ヲ以テ起工ノ式ヲ擧ク衷心欣快ノ情禁スル能ハス

惟フニ本工事完成ノ曉ハ啻ニ交通運輸ノ便益ニ止マラス産業ニ軍事ニ將又行政上ニ多大ノ貢獻アルヘキヲ信ジテ疑ハス望ムラクハ工事關係者ノ精勵努力ト地方諸士ノ援助トニ依リ工程豫期ノ如ク進捗シ開通ノ日ノ速カナラムコトヲ一言以テ式辭トス

昭和四年五月二十二日

埼玉縣知事從四位勳三等　白根竹介

東京府知事正四位勳二等　平塚廣義

祝辭

國道九號線戸田橋架換工事準備成リ本日玆ニ起工ノ式典ヲ擧行セラル邦家ノ爲メ洵ニ慶賀措ク能ハサルナリ

抑本地點ハ往昔所謂中仙道ニシテ帝都ト埼玉群馬ヲ經テ長野方面ニ通スル要樞ナル幹線ノ要衝ヲ占ムルハ彼ノ關東大震災ニ於テ避難、救護、護復興等ニ多大ノ貢獻アリタルヨリ見ルモ瞭々ヲ要セサル所ナリ然ルニ現橋ハ簡粗ナル木造ニシテ幅員亦狹隘加フルニ橋齢三十有餘年、年次其ノ修理惰ラスト雖モ毎歲ノ洪水時ニ於テハ橋脚危險ノ爲メ交通杜絶スルコト一再ニ止ラス本橋改築ノ必要ナルヲ痛感スルヤ年既ニ久シ當局ニ於テモ多年思ヲ此處ニ致スト雖モ縣經濟上容易ニ之レカ實現ヲ見サリキ然ルニ機運漸ク熟シ東京府ト協調ノ上大正十四年架橋ノ計畫ヲ樹立スルヤ本縣會之ニ贊シ政府モ亦多額ノ費ヲ補助セラルルコトトナリ朝野多年ノ翹望漸ク達シ今ヤ準備全ク成リ着工スルニ至リタルハ其ノ喜悅譬フル能ハス

惟フニ本橋成ルニ至ラハ能ク時勢ノ進運ニ應シ交通上至大ノ利益ヲ齎シ地方殖産興業ノ發展ト文化ノ向上トニ資スルコト偉大ナルモノアラム

冀クハ工事關係當事者ノ精勵努力ト地方有志諸賢ノ援助トニ依リ工程豫期ノ如ク進捗シ開通ノ一日モ速カナラムコトヲ一言所思ヲ叙ヘテ祝辭トス

昭和四年五月二十二日

埼玉縣會議長　根岸憲助

祝辭

爰ニ本日ヲトシ戸田橋架橋工事ノ起工式ヲ擧行セラルヽニ際リ小職亦其席末ニ列ルノ光榮ニ浴ス誠ニ欣快ノ至ニ堪ヘサルナリ抑モ戸田橋ハ東京埼玉ノ兩府縣ニ跨リ中仙道ニ架設セル大橋ニシテ其沿革ヲ溫ヌルニ德川幕府以來明治初年ニ至ルマテハ絶テ架橋ノ事ナク諸侯ノ參勤交代ニハ特ニ船橋ヲ造リ平時ニ於テハ馬船二艘傳馬船一艘ヲ以テ渡船ヲ營ミタルニ過キス明治維新ノ世トナリ長野縣人正木誓民本村民永井吉右衞門ト共ニ賃取橋ノ計畫ヲ樹テ合信社ヲ組織シテ資金ヲ募集シ明治八年八月架橋工事ノ完成ヲ見タリ而シテ橋錢ハ一人五厘荷車參錢ニシテ一日ノ收入拾四五圓ナリシト云フ以テ當時ノ交通狀況ヲ想像シ得ヘキナリ工事ハ現在ト大差ナク橋幅延長ト共ニ現在ノ通ナリ爾來明治十九年及ヒ三十二年ノ二回ニ大修繕ヲ施シタルカ明治十九年

權利ヲ埼玉縣ニ讓渡シタルヲ以テ以後埼玉縣ノ管理スル所トナレリ而シテ明治四十年四十三年ノ荒川大洪水ハ著ルシク該橋梁ヲ危險ニ陷ラシメタルヲ以テ大正元年全ク新規架替ヲ爲シ高サ三尺五寸ヲ高メタルカ橋幅及延長ハ從前ノ通リ幅三間長七拾壹間ナリ

惟フニ世運ノ進歩ハ交通ノ改良ヲ促シテ止マス道路ニ橋梁ニ將サニ一大革新ヲ企ツヘキノ秋ナリ併モ大震災ニ於ケル苦キ經驗ハ本橋梁ノ現在ニ顧ミテ轉寒心ニ堪ヘサルモノアリ而シテ今ヤ荒川ノ改修ニ伴ヒ國道ノ改良ト相俟テ幅六間長三百間ノ一大鐵橋ヲ實現セントシ本日ヲ以テ其工事ニ着手セラル小職等一同歡喜雀躍ノ至ニ堪ヘス將サニ知ルヘシ荒川ノ氾濫モ不時ノ震災モ以テ交通ヲ脅威スルニ足ラス中央地方ノ交通益開ケテ產業ノ發達ヲ助長スルニ至ランコトヲ關係町村長一同ニ代リ聊無辭ヲ述ヘテ祝辭トス

昭和四年五月二十二日

戸田橋起工式協賛會長
戸田村長　飯島雄之助

○架換工事設計概要

一　架換位置　國道九號線荒川筋
東京府北豐島郡志村
埼玉縣北足立郡戸田村　立會

二　橋梁長及幅員

左右橋臺前面間距離　五三九米・五九〇

三　取付道路（埼玉縣側）

延長　五九四・二九〇

幅員　一五・〇〇〇

四　橋梁上部構造　東京府寄洪水敷部

長　二一・米七〇ノ上路式　十七連

鋼版桁橋

全徑間　一五七・五〇〇

中央徑間　八七・五〇〇

側徑間　三五・〇〇〇

中央部リーレン式構橋　四三・七五〇

埼玉縣寄低水敷部ノ一連

下路式肱木型構橋

橋床　鐵筋混凝土床版ニ「アスファルトブロック」鋪裝

五　基礎工事　肱木型構橋部主要橋脚

鐵筋「コンクリート」造リ　二基

基礎　井筒　深四一・〇〇　同三七・五〇〇

鋼版桁橋脚橋臺及構橋鎭錠用橋脚橋臺　十九基

末口十吋長五十五呎、六十呎、七十呎ノ米松杭ヲ基礎トシ其ノ上ニ鐵筋「コンクリート」ヲ以テ築造ス

六　總工事費　金百貳拾六萬九千四百圓

七　工事期間　自昭和四年五月　至昭和六年三月

岡山縣道路愛護宣傳歌（國境警備の歌節）

一　人々心を一にして　互に道路を大切に

二　二人並んで行く時も　曲り角には注意せよ

三　皆さん氣を付け何處迄も　互に左側を通りませう

四　他所の縣ぢやと思はずに　朝夕掃除を致しませう

五　田舍道ぢやと馬鹿にせず　平常の手入が大切よ

六　無斷で道路に物を置き　子供遊びは危ないよ

七　何は扨置き道路には　皆さん力を盡しませう

八　聽て立派な道が出來　運輸交通安全に

九　公德重じ何時迄も　維持修繕を怠るな

十　貴いお方も皆さんも　道路改良を第一に